

児童虐待対応医療 ネットワーク事業の紹介

埼玉県



埼玉県マスコット
コバトン&さいたまっち



埼玉県立小児医療センター
地域連携・相談支援センター

紫藤 直美

本日の内容

▶はじめに

1. 埼玉県立小児医療センターの紹介
2. 院内CAATの活動について

▶埼玉県における児童虐待対応医療ネットワーク事業の概要

1. 事業の開始
2. ネットワークのメンバー構成
3. 事業・活動の内容

▶関係機関との連携事例の紹介

地域との連携事例

▶まとめ



はじめに ～埼玉県立小児医療センターの紹介～

- 名称 地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター
- 理念 For the future, for the children こどもたちの未来は私たちの未来
- 昭和58年（1983年）4月 小児専門の第三次医療機関として開設
- 平成28年（2016年）12月 **病院移転** さいたま市岩槻区➡さいたま市中央区新都心
- 令和3年（2021年）4月 地方独立行政法人埼玉県立病院機構が設立され、地方独立行政法人に移行
- 病床数 316床
- 診療科目 29科
総合診療科 新生児科 代謝・内分泌科 消化器・肝臓科 腎臓科
感染免疫科 血液・腫瘍科 遺伝科 循環器科 神経科 精神科
小児外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 泌尿器科
耳鼻咽喉科 眼科 皮膚科 移植外科 小児歯科 集中治療科
救急診療科 外傷診療科 放射線科 など
- 機能 小児救命救急センター 総合周産期母子医療センター 小児がん拠点病院
移植センター 小児がんセンター 災害拠点病院 児童虐待対応医療NTW拠点病院
移行期医療支援センター

はじめに ～埼玉県立小児医療センターの紹介～



緑豊かな環境に立つ病院



平成28年12月
病院移転



「さいたま新都心駅」から徒歩5分の病院

病院キャラクターもできたよ！
「カリヨンの樹」に住むロボットたち



はじめに

～院内CAATの活動について～

以前から虐待症例は存在していたが、虐待を対応する専門の医師が個別対応をしていた。その医師が退職した。

平成15年（2003年）10月～

院内の関係するメンバーで**小児虐待対応チーム（CAAT）**を作り、活動開始。

CAAT：Child Abuse Action Teamの略称、当センターの医師が命名

活動メンバー

- 医師、看護師、ソーシャルワーカー

定例会開催

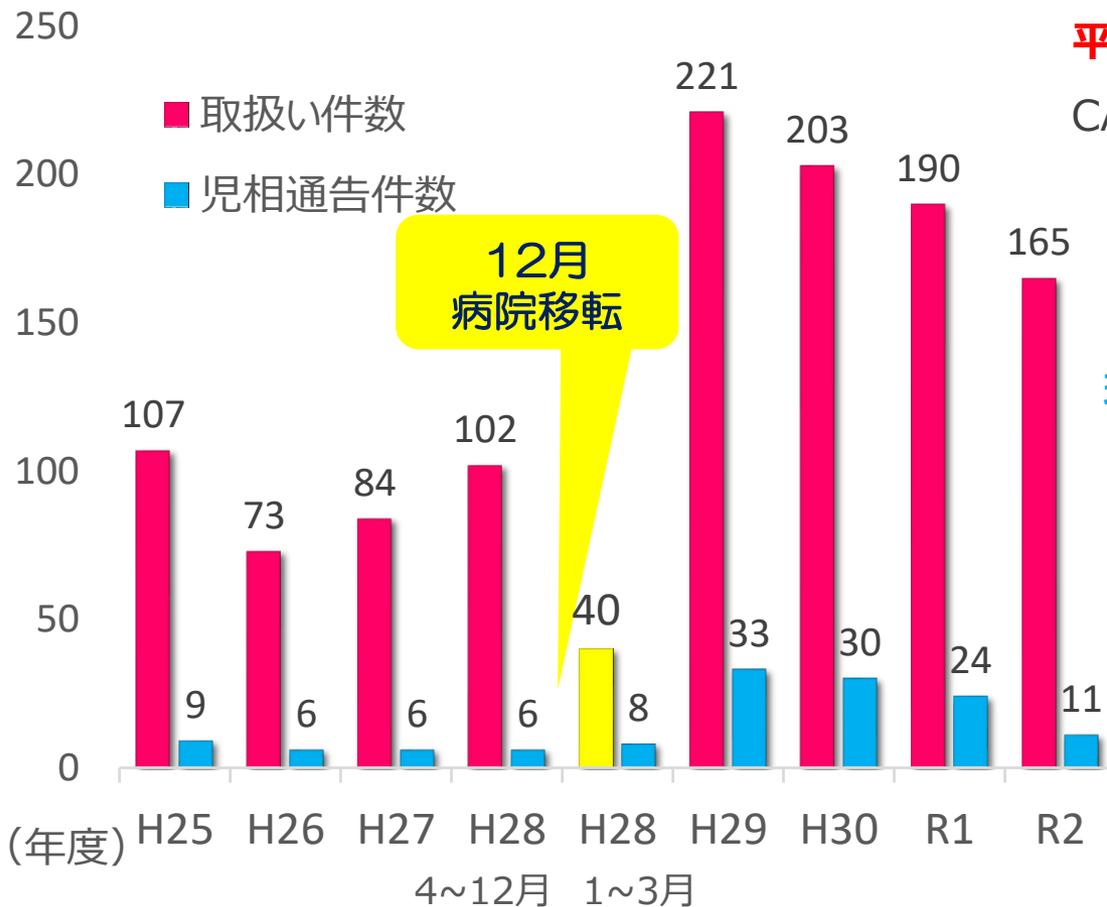
- CAAT定例会（週1回）
- 臨時CAAT（必要時）

活動内容

- 受診した患者さんの虐待（疑い）や不適切養育に関してメンバー間での情報共有（**個人でなく病院全体として対応する**）
- 児童相談所、市町村への通告の必要性についての評価
- 家族、児童相談所、地域機関、警察などの対応

はじめに

～院内CAATの活動について～



平成28年（2016年）12月 病院移転

CAATの「取扱い件数」

「児相通告件数」

急増！



理由：新病院に救急診療科、集中治療科、
外傷診療科が新設された。



救急外来を受診する患者さんが多くいて、
その中で「虐待」や「虐待が疑われる」ケース
が一定数存在し、それに伴いCAATの対応
が急増した。

埼玉県における児童虐待対応医療 ネットワーク事業の概要

～事業の開始～

事業の 受託

国庫補助事業の「児童虐待対応医療ネットワーク事業」に埼玉県がエントリーし、**平成28年度（2016年度）から埼玉県立小児医療センターが拠点病院となる。**埼玉県福祉部こども安全課より事業を受託。

事業開始 の経緯

当時、埼玉県が問題視していたこと

- 埼玉県は児童相談所への虐待相談件数は非常に多いが、医療機関からの相談や通告が全体の2%程度で少なかった。
- 児童虐待に関わる診療を受けられる医療機関が県内には2施設のみで集中していた。
- 埼玉県は医師の数が少なく、また地域により医療機関の数に偏りがある。

児童虐待の受診や通告がもっと多いはずなのに……。
開業医の先生方や二次医療機関では気づかない？
忙しくて対応できない？



埼玉県における児童虐待対応医療 ネットワーク事業の概要

～事業の開始～

事業の 目的

- 専門のコーディネーターを配置し、児童虐待の経験が少なく組織的な体制が整っていない医療機関からの相談に応じる。
- 助言等を行うことにより、医療分野における児童の安心・安全を確保する。
- 虐待の一次予防。
- 虐待に詳しい医師、地域関係者の育成を図る。

☆ 目標 ☆

地域で取りこぼしが無いよう
オール埼玉で対応する！



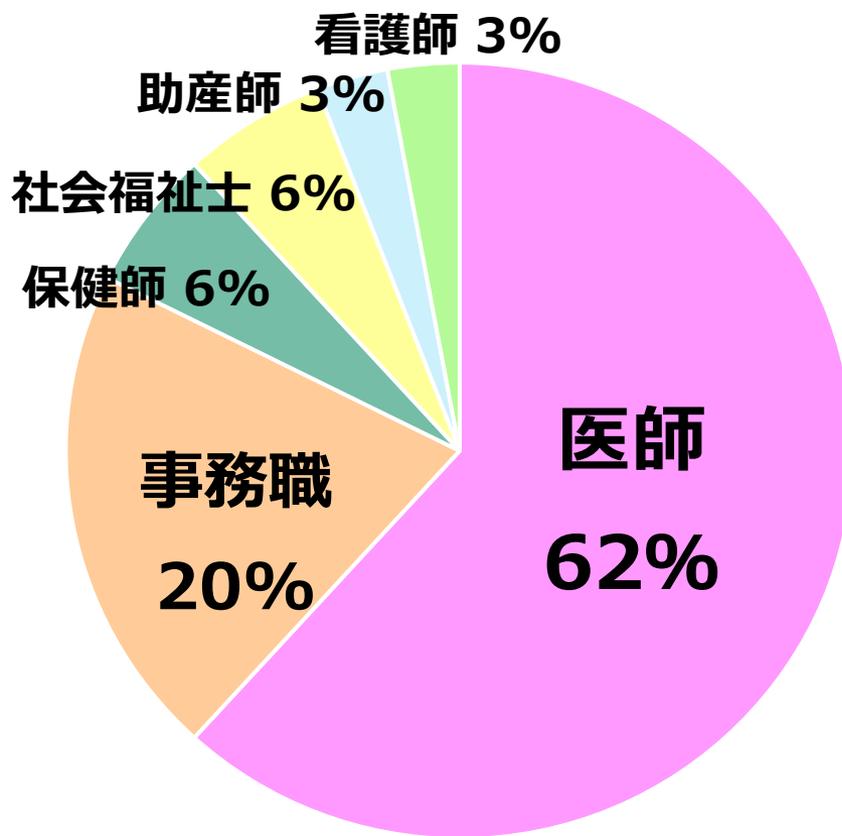
埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要 ~ネットワークのメンバー構成~

ネットワークのメンバー（令和4年度実行委員）

34名

職種別

医師	21名
事務職	7名
保健師	2名
社会福祉士	2名
助産師	1名
看護師	1名



ポイント！

メンバー構成は重要

それぞれの立場が問題視していること、困っていることを言い合えるように、**様々な職種**からメンバーを選出する。

埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要 ~ネットワークのメンバー構成~

ネットワークのメンバー（令和4年度実行委員）

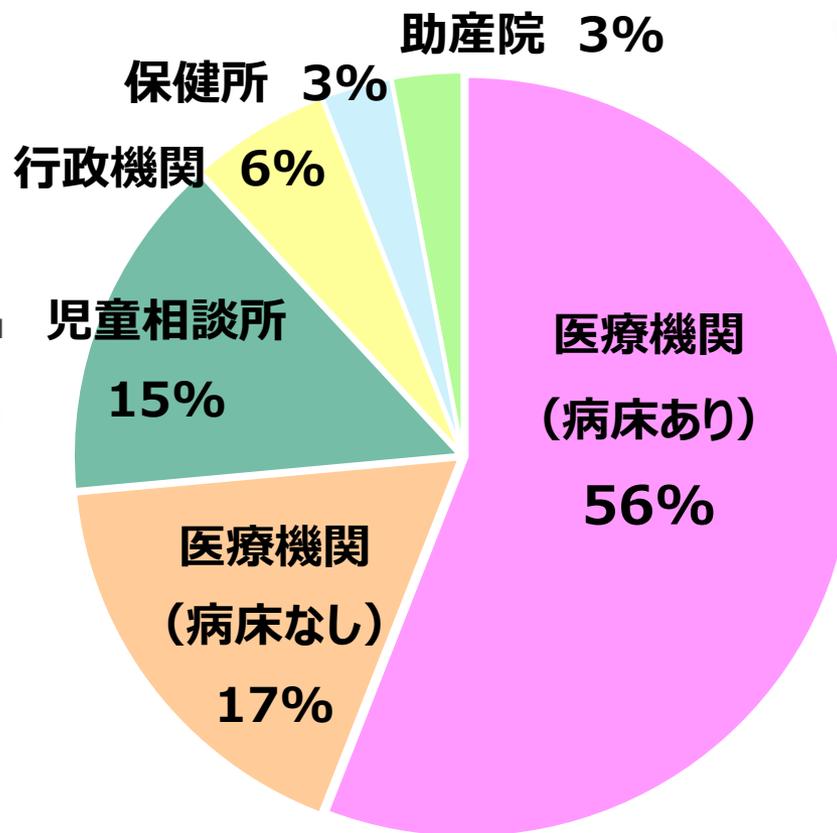
34名



ポイント！

所属別

医療機関(病床有)	19名
医療機関(病床無)	6名
児童相談所	5名
行政機関	2名
保健所	1名
助産院	1名



メンバー構成は重要

所属を超えて、他機関の現状把握ができ、「引継ぎ」「繋ぎ」ができるよう、様々な所属からメンバーを選出する。

埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要

～事業・活動の内容～

毎年、埼玉県福祉部と契約書の交わしを行います。

業務仕様書（一部抜粋）

- ① 児童虐待専門の相談窓口の設置
- ② 医療機関からの児童虐待対応に関する相談への助言等
- ③ 児童相談所からの医療的な相談への助言等
- ④ 児童虐待対応能力向上のための研修の実施
- ⑤ 拠点病院（受託医療機関）における
児童虐待対応体制の整備

5つの柱

埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要

～事業・活動の内容～

① 児童虐待専門の相談窓口の設置

児童虐待専門のコーディネーターとして専任のソーシャルワーカーを配置し、児童虐待に対して医療機関等からの相談に応じるとともに、地域の関係機関との連絡・調整をおこなう。

具体的には・・・

- コーディネーター：非常勤職員1名配置（社会福祉士）
- 医療機関、児童相談所、警察、市町村の支援課などからの相談に応じる。
- 医学的助言が可能な専門スタッフ（拠点病院の専門チーム・実行委員）へ連絡・調整をおこなう。
- 統計や分析をおこなう。

（どのような相談か、どこから相談があったか、誰が対応したか、どこへ繋いだか）



埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要

～事業・活動の内容～

②医療機関からの児童虐待対応に関する相談への助言等

- ア 拠点病院は、地域の医療機関等からの児童虐待対応に関する相談に対応し、必要な助言や参考事例等の情報提供を行う。
- イ 相談を受付けた者（コーディネーター）は、相談内容に応じて、拠点病院の専門チームに報告し、対応方針について指示を受けるものとする。

具体的には・・・

- 虐待に関連した受診や入院に関して専門チーム（拠点病院）で協議し、対応方法の助言をおこなう。 **実行委員と協議することもあり。**
- 虐待に関連したセカンドオピニオンの依頼に対し放射線科医、脳外科医、整形外科医などの専門スタッフが対応する。 **セカンドオピニオン代金、書類作成代金が発生する。**
- 虐待に関連する医療的な個別相談に関して過去の事例をもとに助言をおこなう。

埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要

～事業・活動の内容～

③ 児童相談所からの医療的な相談への助言等

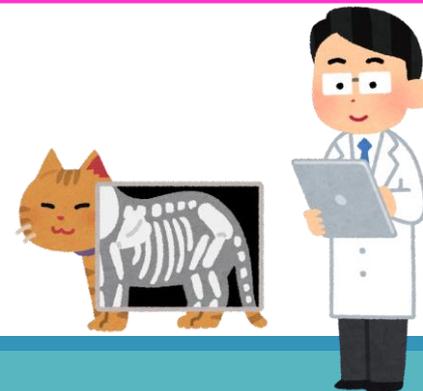
拠点病院は、各児童相談所からの医学的所見等に係る相談に応じ、助言等を行う。

具体的には・・・

- 虐待に関連したセカンドオピニオンの依頼に対し放射線科医、脳外科医、整形外科医などの専門スタッフが対応する。**実行委員と協議することもあり。**

セカンドオピニオン代金、書類作成代金が発生する。

- 一時保護入院の受入れ先となる医療機関を探す。
- その他、虐待に関連する医療的な個別相談に関して過去の事例をもとに助言をおこなう。



埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要

～事業・活動の内容～

④ 児童虐待対応能力向上のための研修の実施

拠点病院は、地域の医療機関の医師等を対象に研修を行う。

具体的には・・・

様々な事務的な業務があります。

● 実行委員会 年2回程度

- ・相談件数の報告
- ・事業計画
- ・共有すべき事案のディスカッション

● 研修会 年3回程度

- ・講師、テーマの選定
- ・講師依頼、謝金支払い
- ・開催通知、広報
- ・申込み受付
- ・申込者への連絡(ZOOM情報)
- ・当日の運営
- ・開催後のアンケート集計、分析



ポイント！

参加者の意見や提案を活かして、次の研修会に繋げていく！

研修会の内容

開催日	テーマ	講師（敬称略）	参加
H29年3月	研修会「医療機関における虐待対応チームの取り組み」 「埼玉県が目指す虐待対応医療ネットワーク」	鍵本聖一、平野朋美 近藤美和子、岡田邦之	105
H29年9月	模擬事例を使った事例検討会	岡田邦之、 星野 崇啓	83
H30年1月	模擬事例を使った事例検討会	望月弘	58
H30年3月	研修会「児童虐待対応医療ネットワークの課題と展望」	溝口史剛	111
H30年8月	死亡事例を使った事例検討会	岡田邦之、星野崇啓	68
H30年11月	死亡事例を使った事例検討会	岡田邦之、星野崇啓	72
H31年3月	教育講演「CPTに何ができるか？」 「千葉県における児童虐待対応医療NTWの現状と課題」	本山景一、仙田昌義	129
R1年9月	医療・福祉・保健関係者を対象とした事例検討会	岡田邦之、星野崇啓	57
R2年1月	イムス富士見総合病院の症例報告等	森内優子、柳澤功、 大岡早織	121

開催日	テーマ	講師（敬称略）	参加
R2年10月	研修会（WEB） 「社会を変えた虐待事例 日本の虐待対応20年の歩み」	奥山真紀子	74
R3年2月	研修会（WEB） 「虐待による乳幼児頭部外傷の現状と問題点」	岡田邦之	218
R3年9月	研修会（WEB）「児童相談所における対応」 「埼玉の児童相談所における医師の役割」	古田洋子 廣岡優美	285
R3年11月	研修会（WEB） 「新型コロナウイルス感染症と子どもたちの置かれている状況」	峯真人	183
R4年2月	教育講演（併用開催） 「児童虐待の画像診断の手続きと意義」	小熊栄二	174
R4年7月	研修会（WEB） 「産婦人科思春期外来 ～性虐待の事例より」	高橋幸子	329
R4年11月	研修会（WEB）「不適切な養育を受けた子どもが支援を受けて生活したその後」	星野崇啓	



- ・事例検討会では事例を通して学びを共有する。
- ・それぞれの立場で自分が何ができたかを考える。
- ・児童虐待に関する知識のレベルアップを図る。

埼玉県児童虐待対応医療ネットワーク事業 令和4年度第2回研修会開催について

日 時 令和4年11月17日(木) 18:30~20:00

開催形式 WEB講演(ZOOMを使用) ※参加費無料

対 象 埼玉県内の医療機関、児童相談所、保健センター、
保健所、警察 等

内 容 座長 埼玉県中央児童相談所 医幹 古田洋子 先生

講師 さいたま子どものこころクリニック 院長 星野崇啓 先生

演題 「不適切な養育を受けた子どもが支援を受けて
生活したその後」

※詳しくは病院のホームページをご覧ください。

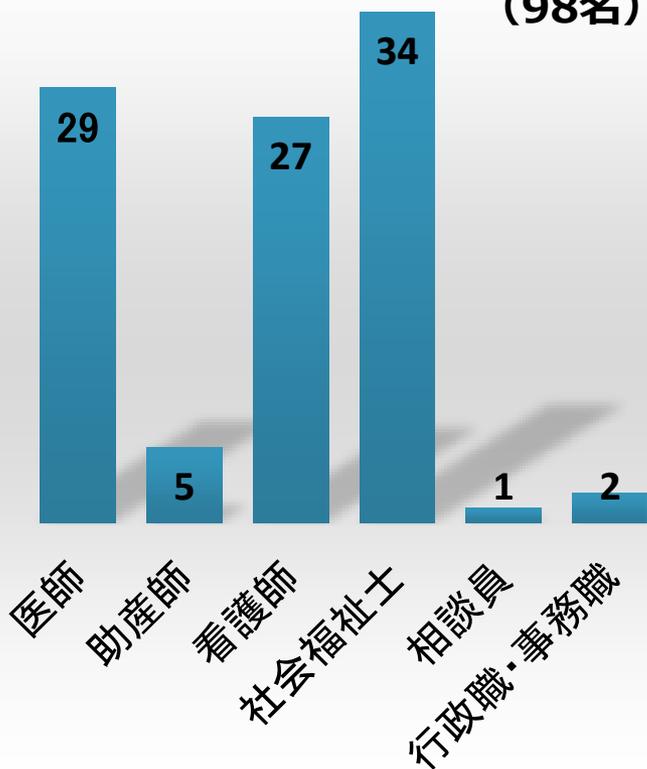


埼玉県マスコット
コバトン&さいたまっち

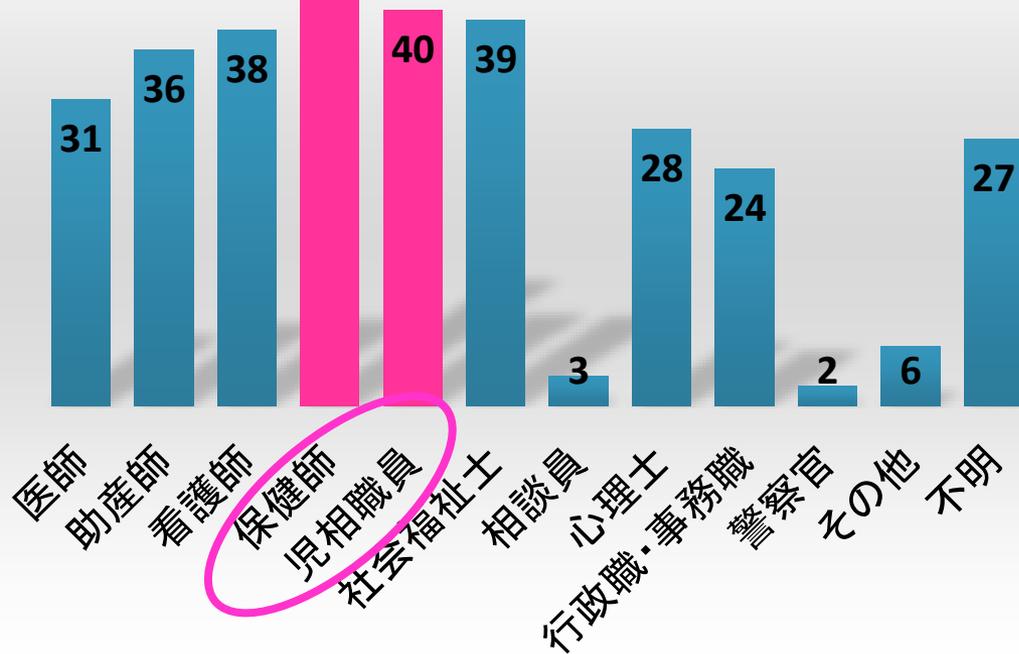
埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要

～事業・活動の内容～

H29年3月研修会 参加者の内訳
(98名)



R4年7月研修会 参加者の内訳
(329名)



埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要

～事業・活動の内容～



地域で開催する研修会は、それぞれの地域でのネットワークの構築や連携強化に大変有効です。

- 地域に根差したサポートを可能にするために、**顔の見える、連携を重視**した研修会を実施。
- 地域のネットワークを強化するには、**情報共有**と**役割分担**が重要なことをそれぞれが認識する。
- 虐待ハイリスク家庭の**長期的な見守り**、**地域で暮らす**、ことのバックアップを目指す。

地域に分かれて研修会を実施

ポイント！



埼玉県における児童虐待対応 医療ネットワーク事業の概要

～事業・活動の内容～

⑤ 拠点病院（受託医療機関）における児童虐待対応体制の整備

- ア 院内に専門的な知識・経験を有する専門チームを設置・運営する。
- イ 専門チームは医学的所見、児童本人・保護者等の情報共有に努め、検討方法や役割分担を定めておく。
- ウ 地域の医療機関からの相談は、協力医療機関とも連携して専門チームが助言の方針を決める。

具体的には・・・

●小児虐待対応チーム（CAAT）

週1回の定例会での情報共有

●小児救急の認定看護師による

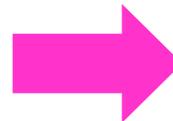
「再発事故防止プログラム」実施

●家庭背景に応じたソーシャルワーカーの関わり

●協力医療機関の選定



ポイント！

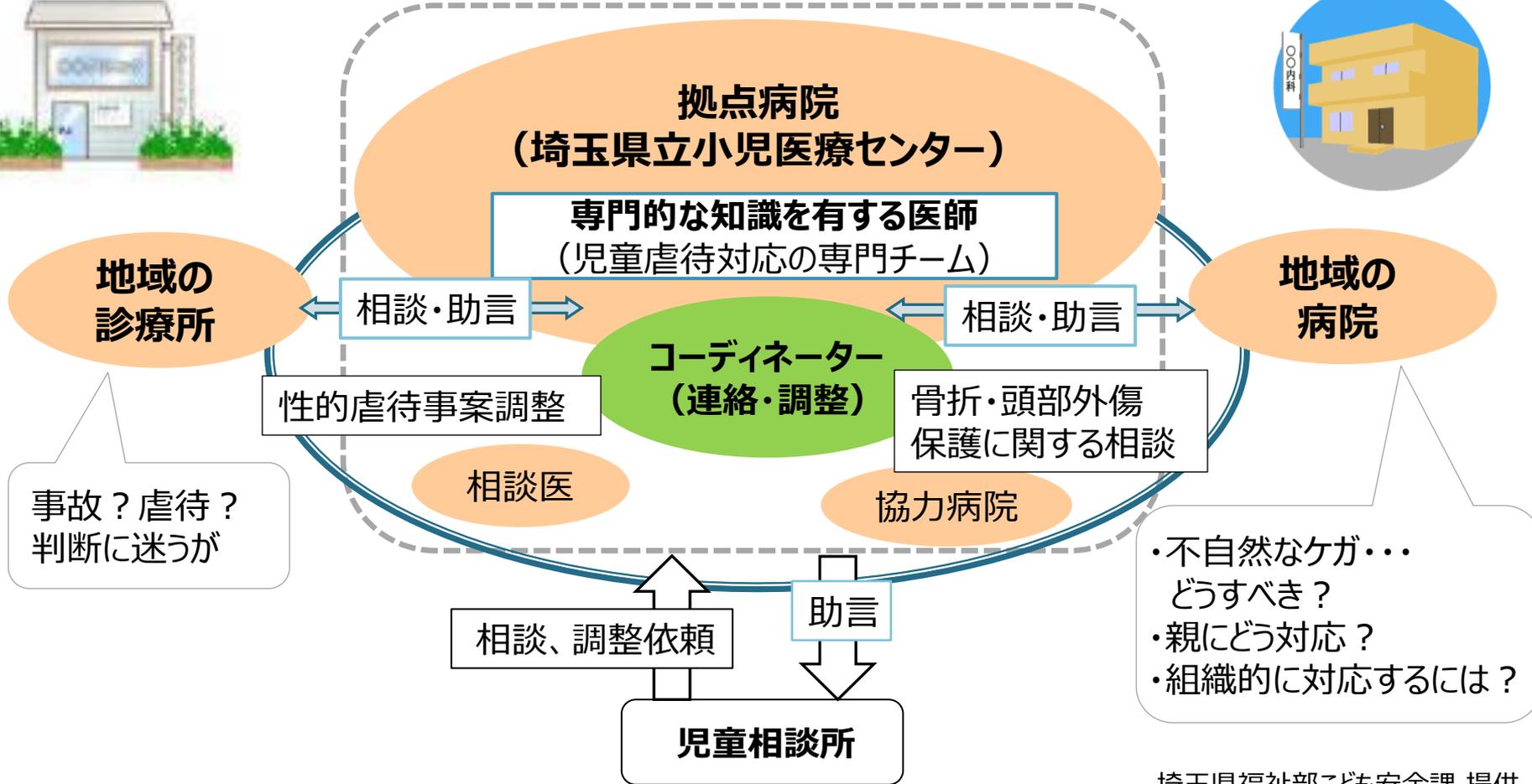


再発事故防止プログラム

- ・プログラム実施の際、ケースによっては父母、保健師が同席する。
- ・事故をきっかけに地域にしっかり繋げる。
- ・地域の関係機関がスムーズに介入できるよう支援する。

児童虐待対応医療ネットワーク事業

拠点病院にコーディネーターを配置し、虐待診断や対応に慣れている専門医に相談できる体制をつくる



事例① 地域から児童虐待の専門チームへ繋いだケース

- **保健師**が自宅訪問中に子の顔面のあざを発見し、**かかりつけ医**の受診を勧めた。
- **かかりつけ医**（クリニックの院長）から「スマホを顔に落としたと言って受診した子がいるんだが、両親が若くてね。なんかおかしい。」と**二次医療機関**へ連絡し、そこから**小児医療センター**へ紹介された。
- **かかりつけ医**の院長、**保健師**は**児童虐待対応医療ネットワーク**の研修会に参加していた。
- **小児医療センター**では、**コーディネーター**がすぐに受診の調整を行い、翌日救急診療科を受診した。
- **専門スタッフ**（放射線科医）が精査し、多発骨折が認められた。
- **児童相談所**への通告後、子は**小児医療センター**に一時保護され、退院後は**乳児院**へ入所となった。

関係機関との連携事例の紹介 ～地域との連携事例～

事例② 協力医療機関と連携し、役割分担ができたケース

- 無熱性けいれんを主訴に**小児医療センター**の救急診療科を受診した。検査の結果、受傷機転不明の急性硬膜下血腫、眼底出血が判明した。
- **児童相談所**に通告後、数日で子は元気になった。
- **乳児院**の受入れは、1週間後の予定となった。
- **児童虐待対応医療ネットワーク**の医療機関（**二次医療機関**）2施設から転院の受け入れ先として手上げをしていただいた。
- **乳児院**入所までに**二次医療機関**へ転院し、今後の育児手技の獲得や評価を行った。

まとめ ～埼玉県児童虐待対応医療ネットワーク事業～

- ▶ **専門のスタッフ**で構成
- ▶ メンバーは、**それぞれの立場**で意見を言い合える
- ▶ 窓口を一本化し、**コーディネーター**が連絡・調整
- ▶ 一極集中化させず、地域の協力医療機関へ**繋ぐ**
- ▶ 研修会、事例検討会を通して**知識のレベルアップ**を目指す



オール埼玉で対応する！

まとめ

相談内容を
検討し、分析
をおこなう。



保育所・幼稚園



児童相談所・福祉事務所



保健所・保健センター



児童虐待対応 医療ネットワーク



医療機関



子育て支援センター



学 校



民生・児童委員

地域で研修会
等を開催し、多
職種の関係者
が関わっていく。

警 察



児童福祉施設



民間の虐待相談



窓口を1本化し対
応する医療機関を
コーディネートし、
一極集中を避ける。

部分的な関りでも
不適切養育家族
に対応できる

一次医療機関で
感じる違和感や疑
問を受け取り、虐
待予防に繋げる。

虐待対応が
できる医療機
関を増やす。

ご清聴ありがとうございました

埼玉県から皆さんのご活躍を応援しています！！



「カリヨンの樹」に住むロボットたち